

平成 30 年度地震・津波防災訓練 (内閣府・湯浅町)

実施報告書 (概要版)

和歌山県湯浅町について

湯浅町（ゆあさちょう）は、和歌山県の北部に位置する、人口約 11,000 人、総面積約 20.8k m²の町である。湯浅湾入部は大規模な埋め立て地であり、臨海市街地が発達している。

湯浅町では東日本大震災を契機に、毎年、津波避難訓練を実施しており、湯浅町津波避難マップの作成や防災行政無線および防災ラジオの併用による情報伝達の迅速化を図るなど、様々な防災対策に取り組んでいる。

今回の訓練では、町でノウハウがなかった避難所開設を、専門家を交えて実施することで、避難後の生活までを見据えた防災意識を啓発することを目的とした。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月11日（日）午前9時に、震度6弱の地震が発生。香住区の沿岸地域では、約3mの津波が予想される。香美町は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：平成30年11月11日（日）9：00～16：30
- 実施地区：湯浅地区（国道より西側）、栖原地区、田地区
- 主催：湯浅町、内閣府
- 参加者数：約1,300名
- 参加機関：湯浅町民、湯浅広川消防組合、消防団（第1・2・4・5・8・9分団）、湯浅警察署、陸上自衛隊第三音楽隊、正木明氏

訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、地域住民や参加機関等合わせて約1,300名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】

- 一部の避難経路において、建物の倒壊などを想定し通行不可としたことで、避難経路を見直す機会を得られた。
- 避難所開設訓練では、住民らが積極的に取組む様子が伺え、町職員・住民ともに、避難所開設の手法などの知識を得ることができた。
- 特別講師による講演会を通じて、事前訓練と自助・共助の重要性を学び、住民らの防災意識の向上に繋がった。

【今後の対策案】

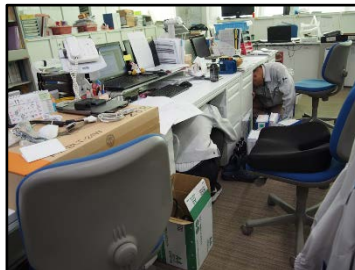
- 避難場所や避難経路については、経路上の安全性や、年齢・体力・健康状態にも配慮しながら設定し、津波避難訓練で検証する必要がある。
- 住民のほか、観光客および観光関連の事業者を交えた津波避難対策を考えていく必要がある。

当日の訓練内容

9:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

全町民を対象に、「自助」の実践として、シェイクアウト訓練を実施した。津波浸水想定区域内の住民は、町指定の一時避難場所への避難訓練を行った。同時に、消防組合および消防団が消防車両による避難広報活動を実施した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



10:10～ 避難所開設訓練

シェイクアウト訓練、津波避難訓練の実施後、全町民を対象に、湯浅スポーツセンターを会場として、災害時の「自助」と「共助」の重要性を学習する場として、避難所開設訓練を実施した。

訓練内容としては、避難所でのプライバシー確保の重要性を学ぶための段ボールベッド等組み立て訓練、啓発グッズを救援物資と見立てた救援物資仕分け訓練を実施した。被災時の体調不良を予防するための、保健師によるエコノミー症候群予防講話と体操を行った後、救援物資仕分け訓練で仕分けた啓発グッズを参加者に配布した。

▼避難所の開設（受付）



▼段ボールベッド等組み立て訓練



▼保健師によるエコノミー症候群予防講話



▼救援物資仕分け訓練



13:30～ 防災講演会、音楽演奏会

気象予報士の正木明氏による「命を守るために知ってほしい～災害に屈しないために～」と題した防災講演会を開催した。

陸上自衛隊第三音楽隊による演奏会を開催した。

▼防災講演会



▼音楽演奏会

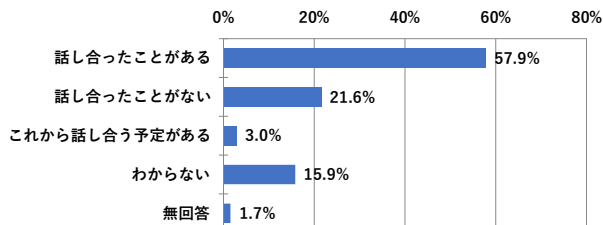


アンケート結果

参加した町民に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：541 人）

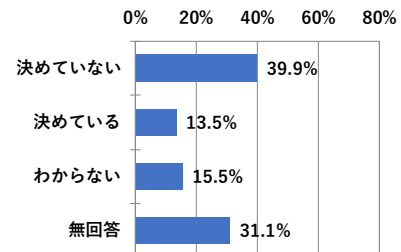
あなたの地域（区）で「災害時の避難について」話し合ったことはありますか。

（回答数=541）



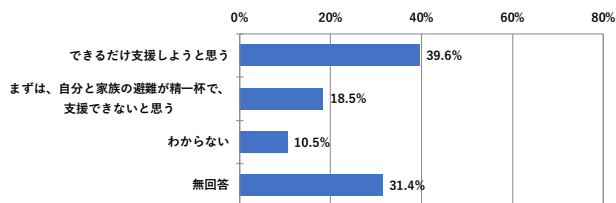
災害が発生した、または発生しそうなとき、ご近所での助け合いの方法を決めていますか。

（回答数=541）



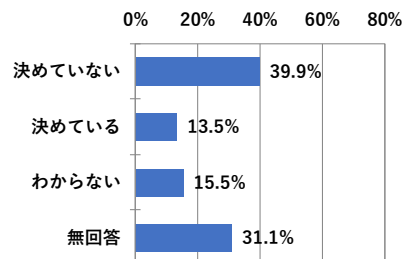
あなたが避難する際に、可能ならば「避難行動要支援者」の避難を支援しようと思いますか。

（回答数=541）



災害時に、家族同士どのように連絡を取るか、家族の中で決めていますか。

（回答数=541）



自由回答欄

- 防災に関する情報をもっと住民に機会をとって流してほしい。
- 仕事にしてもスポーツにしても訓練にしても、イメージトレーニングが一番大事。
- 参加者の意識づけの日頃の対応策が必要。
- 夕方、極寒、雨等条件を変えて行い、問題点を洗い出す必要がある。
- いざ地震になったらどのような行動をとるのかわからないと思うので、シミュレーションをしようと思いますが、どの程度の地震でどうなるか想像が付きません。
- それぞれの命ですから、まず自分が避難したら良いと思います。
- 災害がいつ起こるか分からないし、自分がその時自宅にいるとは限らないので、町が目印をもっと分かりやすく表していただけたいと思います。

